



**P.3……リルから来た悪夢**

「高一ヨニス」学研

1970年(昭和45年)4月号～7月号

**P.67…月は地獄**

「週刊少年マガジン」講談社

1969年(昭和44年)33号～34号

**P.163…月は生きていた**

「別冊少年キング」少年画報社

1969年(昭和44年)10月号

**P.197…囚人船**

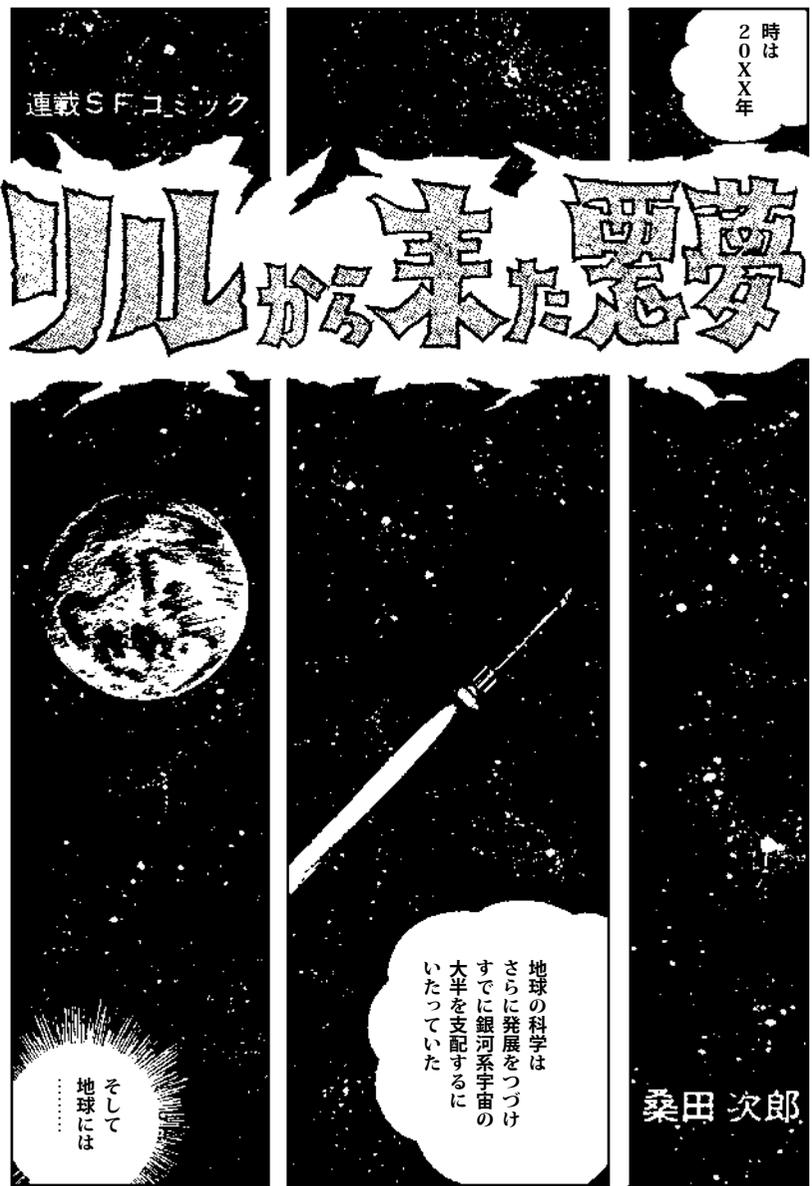
「別冊少年マガジン」講談社

1969年(昭和44年)6月号

**P.297…ぼくは超能力者だあ**

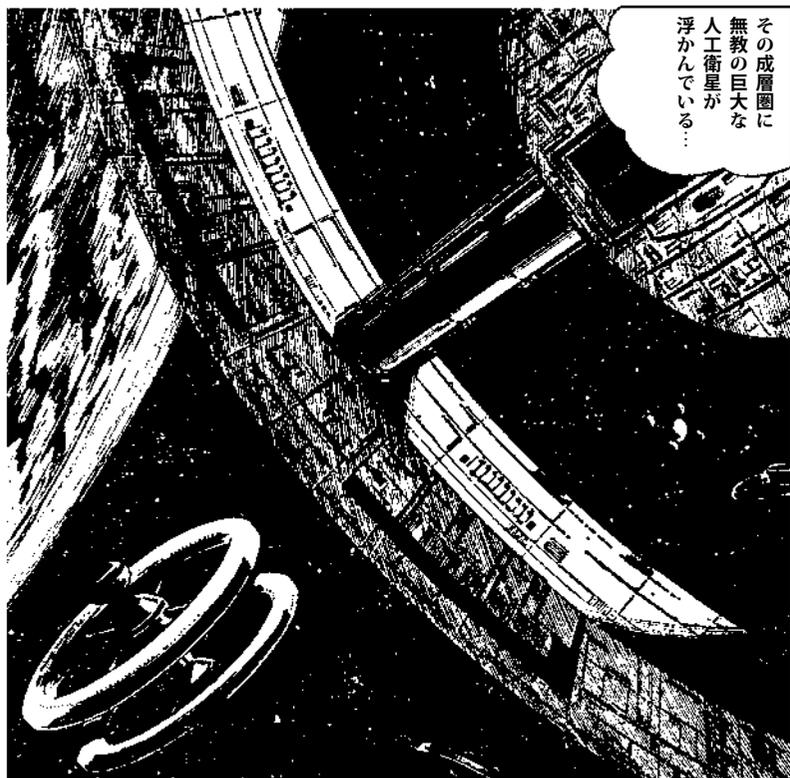
「ミニチョコマガジン」ウインナチョコレート

1970年(昭和45年)



桑田 次郎

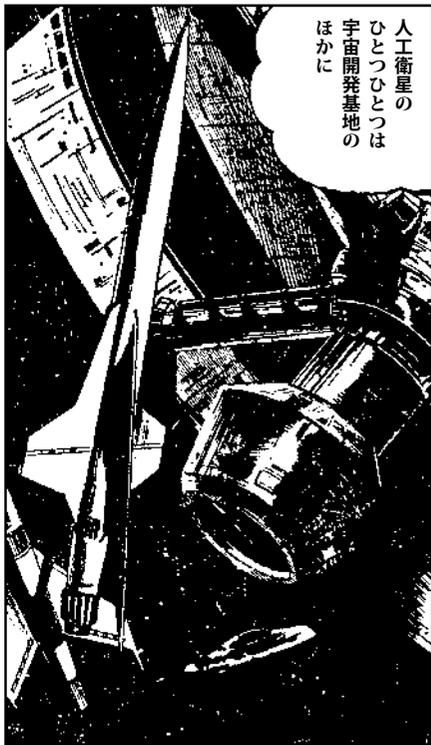
その成層圏に  
無数の巨大な  
人工衛星が  
浮かんでいる…



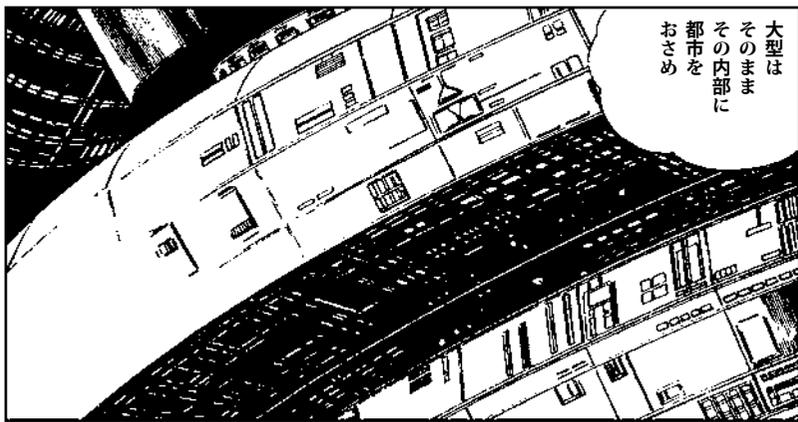
人工衛星と  
人工衛星の  
あいだには  
小型宇宙艇が  
とびかい



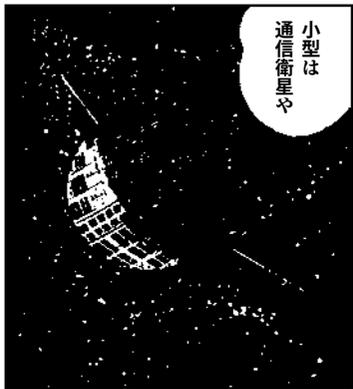
人工衛星の  
ひとつひとつは  
宇宙開発基地の  
ほかに



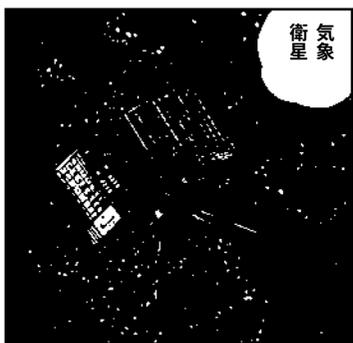
大型は  
そのまま  
その内部に  
都市を  
おさめ

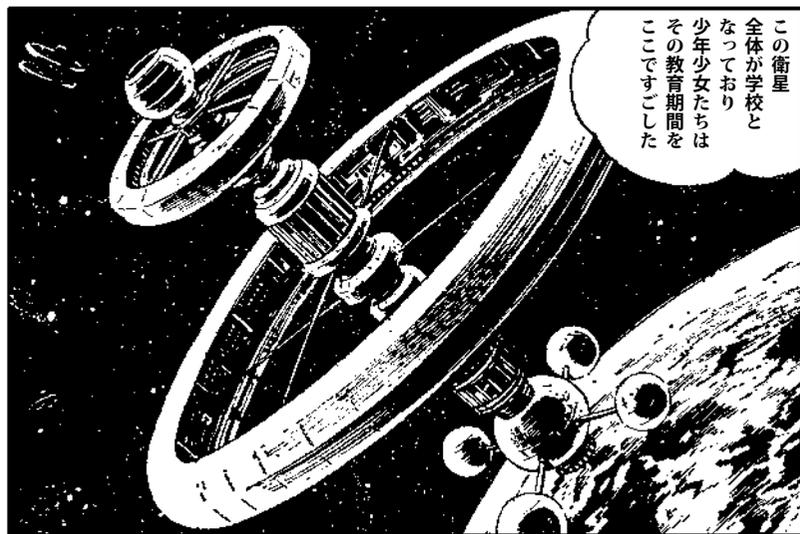


小型は  
通信衛星や

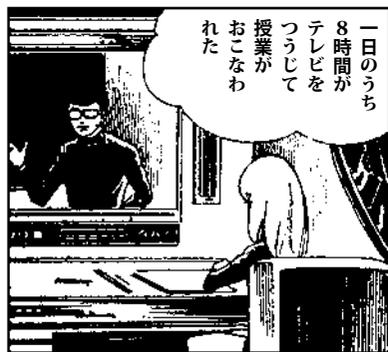


気象  
衛星

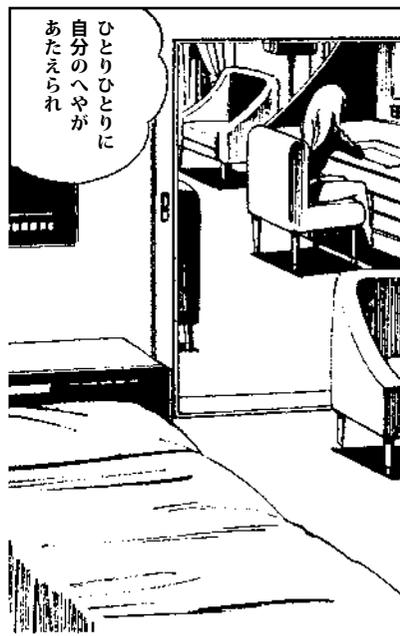




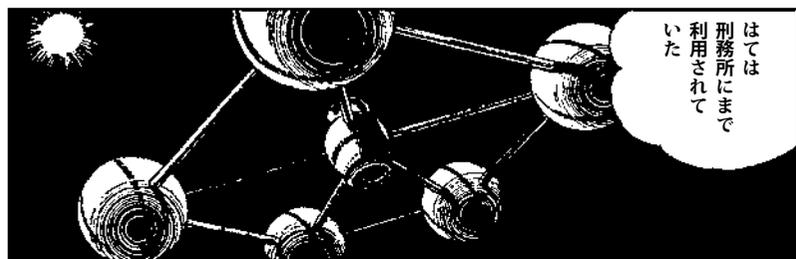
この衛星  
全体が学校と  
なっており  
少年少女たちは  
その教育期間を  
ここですごした



一日のうち  
8時間が  
テレビを  
つうじて  
授業が  
おこなわ  
れた



ひとりひとりに  
自分のへやが  
あたえられ



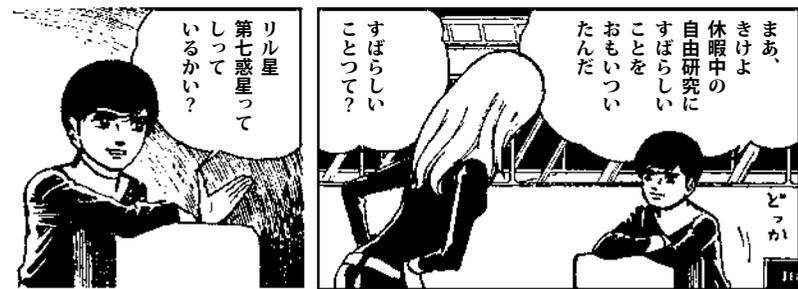
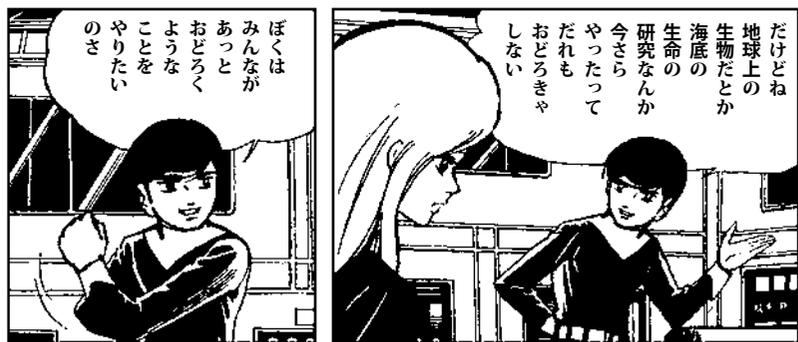
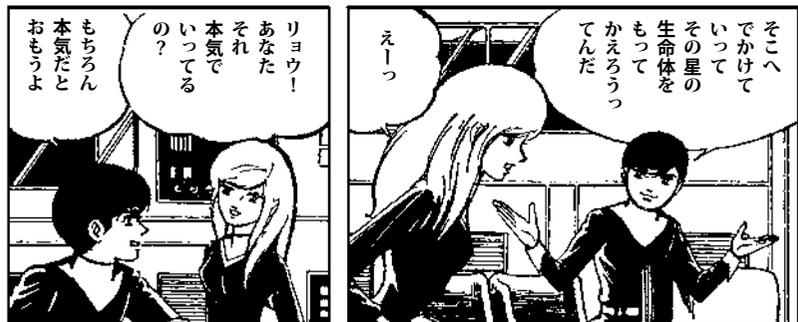
はては  
刑務所にまで  
利用されて  
いた



地土には  
人かげはなく  
そこは家畜や  
食料の栽培の  
ほかは……



地下や  
海底の  
資源の  
発掘に  
利用される  
のみで  
あった





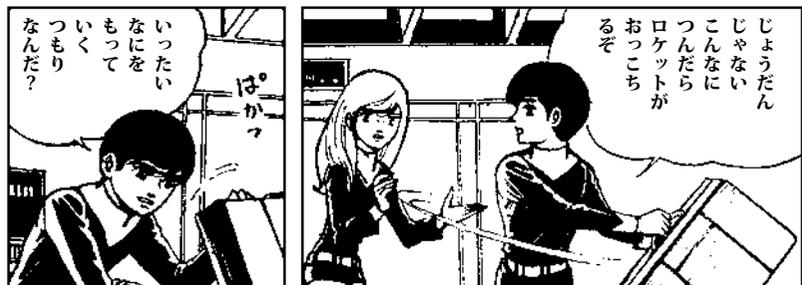
いいえ  
心が  
はずんで  
こまるわ

そんな  
むちゃな  
ことが  
へいきで  
できる人は  
将来  
わたしの  
夫になる  
なんて……  
いやか？



もちろん  
旅行の  
したくよ  
なにしろ  
遠くへ  
いくん  
ですもの

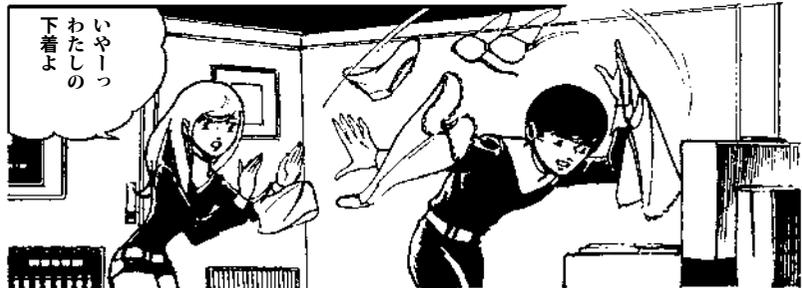
おいおい  
なにを  
してるんだ？



いったい  
なにを  
もって  
いく  
つもり  
なんだ？

はかっ

じょうだん  
じゃない  
こんな  
つんだら  
ロケットが  
おっちょ  
るぞ



いやーっ  
わたしの  
下着よ



むちゃ  
だわ  
それに  
リル星は  
太陽系じゃ  
ないのよ

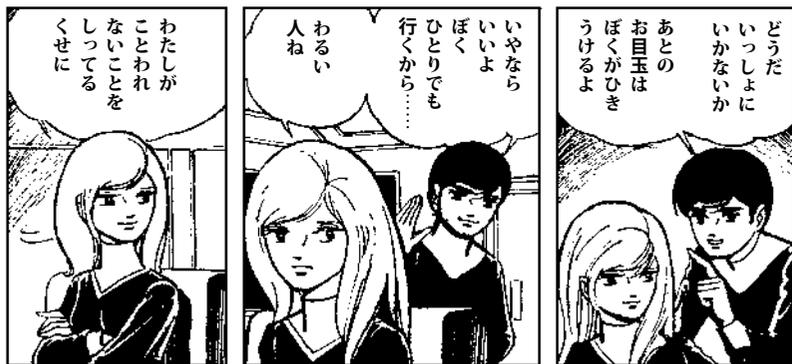


それなら  
だい  
じょうぶ  
おやじは  
宇宙開発局の  
局長さ  
あそこには  
四次元空間  
ロケットが  
ある



あなたの  
お父さんが  
リル星に  
ゆくことなんか  
ゆるしてくる  
はずがないわ  
もちろん  
ゆるして  
くれっつこ  
ないね  
だから  
ないしよ  
ロケットを  
拝借して  
いつちまうのさ

ロケットは  
電子頭脳で  
完全自動操縦だ  
行先の  
ダイヤルを  
おすだけで  
発射ボタンを  
おすだけで  
目的地につける  
へへへ……



どうだ  
いっしょに  
いかないか  
あとの  
お目玉は  
ぼくがひき  
うけるよ

いやなら  
いいよ  
ぼく  
ひとりでも  
行くから……  
わるい  
人ね

わたしが  
ことわれ  
ないことを  
しつてる  
くせに

